

【準決勝】

流経大柏 vs 専大松戸

流経大柏は1-4-1-3-2、専大松戸は1-4-4-2の中盤はダイヤモンドの形であった。立ち上がりはシンプルに背後を狙い合う攻防が続いた。

専大松戸は8分、左SBの③前澤のドリブル突破からチャンスを作り⑩内田に合わせるもシュートまで至らず、決定機を逃す。

しばらく攻防が続いたが、18分流経大柏⑭レオニのクロスから⑪小林のヘディングシュートで得点し、吸水前に試合を動かした。

専大松戸は⑨石津と⑪寺島の身体能力を生かして相手を間延びさせ、空いたスペースに⑩内田、⑭南が侵入し良い距離感でゴールに迫るも、流経大柏はボランチの⑩渋谷を中心とした高い運動量とインテンシティで、相手にスペースを与えない。

流経大柏は、⑬伊藤のポストプレーと⑨石川の背後ヘランニングから、チャンスを作る。⑨石川はドリブルでも決定機を作ることができるので、その対応に追われる専大松戸は、ゴール前でクロスの対応にズレが出てきてしまうことが多かった。

流経大柏のカウンター時のランニングスピードと人数は脅威であった。

59分途中出場の⑦川畑のスループアスに抜け出した⑮松本がGKとの1対1を冷静に沈め2-0とし、続く74分、ショートコーナーから相手のタイミングをずらし、ファーでフリーになった⑨石川がヘディングで折り返し、⑦川端がボレーで合わせ3-0と勝ち越しに成功、3-0で流経大柏が決勝へと駒を進めた。

【準決勝】

暁星国際 vs 習志野

お互い1-4-4-2のシステムで、立ち上がりからボールを握ろうとする。

暁星国際はDF林を攻撃の入り口とし、スピードのある2トップへの背後へのフィードと内側への侵入で相手のブロックをずらそうとする。一方習志野は、幅と深さをとりながらMF三橋とMF佐伯を經由して2トップへのクサビを入れながら前進。中央に相手を集めながら右サイドのFW森澤のスピードを活かしてクロスボールからチャンスを窺う。最初のチャンスをものにしたのは習志野。DF飯田が左のハイサイドでボールを受け、相手をかかわして右足でクロス。インスイングのボールに対してニアでFW山本がヘディングで合わせ先制する。飲水後、暁星国際が流れをつかみ始める。セットプレーの流れで右の深い位置に侵入しDF安部がハーフスペースからワンタッチでアーリークロス。FW明田がゴール前狭いエリアでコントロールし、左足で滑りながら流し込み同点に追いつく。その後も習志野が我慢する時間帯が続くが同点のまま前半終了。

後半に入り、お互い拮抗した状況の中、交代で流れを掴みに行く。64分習志野はサイドの森澤に変えてFW西川を入れ、背後への動き出しを積極的に繰り返しながら流れを引き寄せる。対する暁星国際もFW明田に変えてスピードのあるFW市来を投入し、中盤で奪った後の素早いカウンターを仕掛けたい。68分GKのキックからこぼれ球を拾いFW春山からダイレクトでFW西川へパス。裏に抜けた西川はスピードを落とさずにコントロールし右足を振り抜いて2-1となる。その後、残り5分からセットプレーを含めて暁星国際が押し込むが、習志野の粘り強い守備を崩せない。しかし後半アディショナルタイム、暁星国際はCKからこぼれ球に反応したMF辻野の左足ボレーシュートがゴールネットを揺らし同点に追いつき延長へ。

82分、CKのこぼれ球を拾った暁星国際MF高田がハーフスペースから放った右足そのままゴールネットを揺らし、勝ち越しゴールとなる。習志野は暁星国際のゴールに迫るが最後までゴールを奪えず、暁星国際が決勝進出を決めた。

2021/6/20 総体決勝 流経大柏 vs 暁星国際

流経大柏は1-4-1-3-2、暁星国際は1-4-4-2の中盤ダブルボランチの形であった。

前半立ち上がりから中盤でのセカンドボールの回収と攻守の切替の早さで勝る流経大柏が押し込む展開が続く、試合の主導権を握った。対して暁星国際は守備陣が落ち着いて対応して奪ったボールを前線の2トップにシンプルに繋いだり、右サイドのMF⑱羽石が相手SBとの1対1で仕掛けてチャンスを作ろうと試みる。暁星国際は獲得したFKでFW⑨明田が蹴ったボールをゴール前でGKがファウルするがビッグチャンスには至らず。流経大柏はFW⑨石川のポストプレーとFW⑦川畑が中盤に落ちてボールを収めて、徐々に攻撃のリズムを作る。その2人を起点にサイドからのパスワークで攻めてチャンスを作り、31分に獲得したCKからDF②長谷部のヘディングシュートで先制すると、33分には右サイドからの崩しからFW⑨石川がこぼれ球を押し込んで追加点を決める。36分、MF⑱松本がドリブルでペナルティエリア内に進入して得点を奪う。流経大柏は一気に流れをつかみ3-0とする。暁星国際は前半の終盤で立て続けに失点して苦しい展開となった。

後半に入り、流経大柏はMF⑭堀川、DF⑳都築の2枚を投入する。暁星国際はMF⑲スィラチャイを投入し1-4-1-4-1にシステムを変更して臨むが、奪ったボールを効果的な攻撃に繋げられずに、なかなかシュートまで至らない。流経大柏は59分、中盤の高い位置で奪ったボールからショートカウンターを仕掛けてバイタルエリアに進入し、FW⑦川畑がDFラインとGKの間にスルーパスを送り、MF⑭堀川がきっちり流し込み追加点を取った。67分、CKからの流れからFW⑦川畑がシュートし、こぼれ球をMF⑭堀川が押し込んで得点。途中出場のMF⑭堀川が2得点の活躍を見せた。最後まで攻撃の手を緩めない流経大柏は80分にCKからMF⑩渋谷がヘディングシュートで決めて6-0とする。

試合を通して攻守において終始相手を圧倒してペースを握っていた流経大柏が4年ぶりの優勝を決めて、全国大会の切符を手にした。